

東伊豆町は、静岡県伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山並みを背に伊豆大島をはじめとした伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口12,418人(平成30年3月31日現在)高齢化率43.7%の小さな温泉まち。海沿いにある6つの温泉郷(大川温泉・北川温泉・熱川温泉・片瀬温泉・白田温泉・稲取温泉)にはそれぞれの小さな漁港がある。この中でも稲取漁港の立縄釣り(一本釣り)漁で揚げされた金目鯛は「稲取キンメ」ブランドで東伊豆町立図書館有名である。観光地であるこの町で「おもてなし英会話入門」(主催)が2018年6月4日、東伊豆町立図書館で参加者16名の講習会が開かれた。東伊豆町立図書館の内山淳子館長から町民の皆さんが観光で来られた外国の方に少しでもおもてなしができるよう英会話教室を開いた趣旨の説明があり、東伊豆町の中学校で英語を教えていた河津町の相馬秀世先生(60)が紹介された。



【写説】 高齢者の参加が多い英会話教室



【写説】 相馬秀世先生

懐かしい英語の歌”Take Me Home, Country Roads”を合唱
今も中学の英語教材にあるという懐かしい英語の歌”Take Me Home, Country Roads”の合唱から勉強が始まった。相馬秀世先生は38年間中学校で英語を教えていて今年3月に退職されたばかり。何となく中学校の教室のような雰囲気になり、中学1年生にタイムスリップし女性の英語の先生を思い出しました。

英語で自己紹介、外国の方への話しかけ方



【写説】 真剣な英会話(英語で自己紹介)



【写説】 楽しい英会話(外国の方への話しかけ方)

「それでは皆さん英語で自己紹介をしてください」と脅かされましたが、中学生レベルの例文が配布された。テーブルに4名が座り、それぞれとペアになり、自己紹介をし合う。会話の前に英語でじゃんけんして勝った方が先で、負けた方が後という遊びがあって大変盛り上がった。次は外国の方に声をかけるシーンの英会話。

【写説】向かいに座った同級生の稲葉忠彦さん(72)と加藤たか子さん(72)、お互いの顔を見るゆとりがなく例文を参考に、たどたどしい英語で真剣に会話をしていた。それを側で聞いていた先生もつい笑顔が。

英会話にチャレンジ！！



[シナリオ以外の英会話](#)

【写説】 真剣な英会話(会話にチャレンジ)

東伊豆町の駅前で困っている外国の方に声をかけて料理店を紹介するシーンの英会話。

「二人組で前に出てやってくださる方・・・」の問いかけに、外国人観光客の役はすぐに決まったが、日本人役は、なかなか候補者がでなかった。(暫く沈黙)そんな時、「僕がやります」と手を挙げたのが何と稲葉忠彦さんだ。それには皆さんが「おー」と言いながら拍手をした。

例文では、鮮魚料理が食べられるお店を紹介することになっていたが、外国人観光客の役の人はいきなりラーメンが食べられる店を聞いた。それに対して、稲葉さんは例文通り、堂々と「どんなものを食べたいですか」と答え、笑いをとる。その後、稲葉さんは例文が利用できないことに気が付いて「ポリスの近くにある」と答えると、外国人役の人が「ポリスポックスのことですか」と・・・このように、奮闘しながらリアルな会話を続けた。その様子を見た会場の皆さんが稲葉さんの勇気に感動し、最後に大きな拍手を送った。

2人に参加した動機を尋ねると、稲葉忠彦さんは「最近、外国人観光客から声を掛けられて困ったので」と、外国人観光客の役の人と同じく「外国人観光客からラーメン店を聞かれたので」という。

最後に「38年間中学生を教え続けてきましたが、こんなにやる気がある生徒さんに出会えなかったです。全員がやる気があるというのはすごいな！」と先生が感想を述べられ、楽しかった1時間の授業が終了した。

<取材後記>

平成27年3月に国土交通省観光庁(観光地域振興部観光資源課)がインバウドに取り組む全国各地の事業者や、その事業を支援する地方自治体や観光協会に向けて作成した「インバウド着地型観光の手引き」をインバウドへの理解、語学や接客スキル獲得など「おもてなし」マインドを備えた人材を積極的に育成するために発行している。インバウドの取り組みは殆どされていないこの町で「おもてなし英会話」を企画した東伊豆町立図書館の内山淳子館長と講師の相馬秀世先生、そして、勇気をもって参加された町民の皆さんは素晴らしいと感じた。特に稲葉忠彦さんから「おもてなしには勇気が重要だ」ということを学んだ。この町には台湾人、中国人、タイ人などのアジアの人が住んでいる。英語以外の言葉でも、この人達の協力を得て、外国人観光客におもてなしができる町になることを期待したい。

80歳位のお爺さんが大きな英語の辞書を片手に「これは(英会話)認知症予防にいいんだよな～！ あ～、楽しかった。また来よう！」と一人つぶやいて教室を後にした。

これも、生きがいなのかな？

取材:生きがい特派員賀茂地域担当 白神時雄